

日本共産党 和歌山市会議員

ひめだ高志ニュース

NO.1383

22.4.5

3月臨時市議会報告

県がマリーナシティへIR（カジノを含む統合型リゾート）を誘致するため国への申請に必要な地元自治体の同意の賛否を決める臨時市議会が3月28日（月）～30日（水）に開かれました。

日本共産党市会議員 中村あつし議員が質疑

28日、本会議で議案説明。①区域整備計画に定める本市が実施する施策及び措置に係る事項、②県が国土交通大臣に区域整備の認定を申請することの同意を求めたものです。日本共産党の中村あつし議員は質疑と、県が

IR特別委員会が即日審査

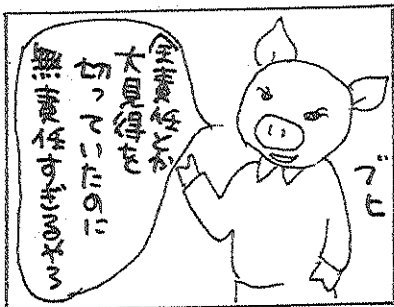
議事はIR誘致に関する特別委員会（日本共産党市議員は森下正典議員と私、ひめだ）に付託されました。

森下議員は、説明会で市民の質問は一人も聞けず十分だったのかと市長に問い、県の説明会に加え市として42地区連合会で説明会をするのが市長のまう「丁寧な説明」となるのではないかと指摘しました。

私、ひめだは、整備計画の公表が遅れた原因は、事業者と県にあるが、議論が不十分ではないかと質問。またカジノ事業者のシーズが準備する他のカジノ

フリーの人々

く1166



今週のフリーの人々 (その329)

に比べ、和歌山の計画は過大とする静岡大学経済学教授の試算が示して、計画の現実性を指摘しました。

「これこそカジノ依存症?!」

4月1日、新年度が始まり、市役所も人事異動になった方が次々とあいつつにやってみていつも以上にザワザワしています。日本共産党市議員の控室に行くときみんなが「ヒビビビ」って怒っています。何かとよく聞いてみると、尾花市長が3月31日の定例記者会見で、IR誘致の同意に関連して、ギャンブル依存症が広がることを心配して

審査後、ひめだ、森下と政和クラブの代表和議員の3人が反対討論。採決は6対4の賛成多数で可決。民主クラブの山本忠雄議員が少数意見を留保。



ひめだ高志

誘致に反対する市民を念頭に、「カジノ以外の収益性を高めたい。てほい」「来られた方には市内のよいところを見てほしいと呼びかける。カジノをやってくさいとは呼びかけない」と話した。Eという朝日新聞の記事を見て、無責任、IRの本質を理解していないのかと怒っているのです。この市長のフワフワした頼りない姿勢、これはカジノ依存症の症状では?!

森下ナナ子議員の反対討論

30日の本会議での日本共産党・森下ナナ子議員の反対討論は次のとおりです。

日本共産党市会議員団を代表して、提出された議案第1号「和歌山県特定複合観光施設区域整備計画に係る同意について」に反対の立場から討論を行います。

特定複合観光施設いわゆるIRはこれまで日本にはなかったものであり、かつ

刑法で禁じられていたカジノ賭博行為を含むものという点で、和歌山市だけでなく全国で多くの不安、疑問があるのは当然です。根強い反対の声は減るどころかむしろ広がっており、横濱市のように誘致から撤回へと進んだところがあることからも明らかです。そもそもIRの収益の大半は部分金をカジノ収益に依存し、そ

の大部分を日本人から得るという計画になっていることをはじめ、ギャンブル依存症対策の一環として徴収される一回6000円の入場料を当初50億円と見込んでいたものをここにきて4割増しの70億円にしたこと、650万人という来訪者予測の妥当性など納得できない説明がされたとは到底言える状況ではありません。市長は丁寧な説明をすると言いつつも市独自の説明会を

行っていない上に、市民に求めたパブリックコメントや説明会、公聴会の開催結果、内容も公表されたばかりです。区域整備計画の策定の遅れによって、説明会、公聴会、パブリックコメントの計画がずいぶん大変任は事業者と県にあります。

4月28日という国への申請に間に合わせるというのが最優先で進められていると聞かざるを得ません。市長は市民の疑問に答える義務があり、かつ県に対してこのような推進め方については疑義を申し入れるのが務めではないでしょうか。さらに「やることはすべてやった」「和歌山市の人口衰退などに歯止めをかけるにはIRはまたとないチャンス」と

市長は言いましたが、そのIRの収益として不確定要素が多く、このような動きはあまりにも無責任です。入場料や給付金の財源がギャンブルでありそれをあてにするという市の姿勢そのものに問題があります。そもそも社会保障などの義務的経費については、国からの交付金と市の一般財源によって安定的に計上されるべきものです。人口衰退や経済の低迷に悩む自治体は和歌山市だけではありません。今市民が必要としていることはどういうことか。市民の命と健康、暮らしを守るという地方自治体の本旨にたつて今一度考えることを強く求めます。以上を申し述べ反対討論といたします。

こんなことは日本共産党です

危険で冷たい政治に審判
岸田政権が危殆に瀕して6
か月になります。202
1年10月4日に就任し、
アベ・スガ政権の骨格を
引き継ぎ解散・総選挙を
実施。衆院で改憲勢力が

分の2以上の議席を維持した後は、敵基地攻撃能力保有の議論を加速するなど9条改憲に前のめり姿勢が鮮明です。新型コロナウイルス対応では、なりゆきまかせに終始し「第6波」の感染爆発を引き起こしました。

首相は「新しい資本主義」を看板にして、新自由主義の弊害を口にしますが、

どこが間違っていたのかは説明せず、どう転換するかも示しません。大企業・富裕層を優先し、国民の所得向上を置き去りにしてきた政治の抜本的転換が欠かせません。

公明党で3か月を切った参院選で民意に逆らった政権に厳しい審判を下すことが必要です。

反対は10人。賛成多数で可決

次に自民党の中谷謙二議員が賛成討論したのち起立採決。「IR誘致に同意」

について、日本共産党の6人を含む10人が反対しました。賛成多数で可決。